

# 平成22年度 施政方針

Renaissance of Kushima City

都井岬の御崎馬

改革においては市債残高の縮小、人件費の抑制など、健全化への道筋をつけることができました。

すべてとは言えないまでも、これまで積み残されていた懸案事項の多くを整理、解決し、また軌道の修正に成果をあげることができたものと自負しています。

さらに、山積する課題の処理に多くの時間と労力を費やさなければならなかった状況下、2つのトンネル開通を含む国道448号の整備、黒潮ロードの完成、駅の駅および駅前周辺の整備など、安心・安全や観光をはじめとした産業振興にもつなげる「交通ネットワークの充実」。市民病院・総合保健福祉センターの整備による「健康医療の拠点づくり」。ほかに先駆けて取り組んだ第3子以降の保育料無料化などの「子育て支援の充実」。旧熊峰産業廃棄物処分場の徹底した調査監視視動や水辺環境保全都市宣言による「環境保全意識の高揚と保全活動の推進」。市民税の1%を活用した新たな地域づくり事業の展開やNPOなどとの連携・育成。地域の自立と発展の力を握る自治会制

わたしは、市民の皆さんから二度の負託を受け「安心・安全・安定した暮らし」の確保と自立する串間の実現に向け、各種施策に鋭意取り組んできました。平成22年度はまさにその総仕上げの時となります。2期8年におよぶ任期中、2つの第3セクターおよび土地開発公社の整理・清算、指定管理者制度を含めた民間活力の導入、大課制など思い切った組織改革、財政危機宣言を発し危機感を高めながらも前向きな姿勢で臨んだ財政

百年に一度と言われる不況の影響が続く今、このような時にこそ、市民が一丸となって長期総合計画にも掲げている「しあわせで住みよい豊かな串間の創造」という大きな目標に向かって、さらに前へ前へと進んでいかなければならないと思っており、その底力が串間にはあると信じています。もちろんわたしは、その先導役として自らの持てる力のすべてを傾注すべく決意を新たにしているところです。

度への移行など「市民協働のまちづくりの推進」。適材適所の行政人事の徹底から始めることで、市民間にも広がりを見せている「政争のないまちづくり」など、マネフェストに掲げている市民の皆さんとの約束を着実に実現してきました。

そのほかにも、福島港の開港。新たな地域づくりや人材の発掘・育成にもつながった市制施行50周年記念事業。市内各エリアにおける農地保全事業の実施。沿岸部の防災レベルを格段に向上させた防災行政無線の整備。廃止路線代替バスからの大転換を図り、経費を最大で約1/4にまで抑え、さらに利用者も大幅に増加してきているコミュニティバスの運行開始。家庭用太陽光発電設備への補助制度や職員によるマイはし・ノーカー運動など、串間市独自のエコ対策の推進。災害にも強く安心・安全な水道水の提供を可能にする高度浄水施設の整備。取り壊しの危機に直面

していた旧吉松家住宅を購入、再生、活用し文化および観光の新たな拠点づくりなど、数多くの実績を残すことができ、さらに近年は、国の経済対策を活用しながら地域の活力回復にも多彩な事業を展開しているところです。

平成22年度当初予算編成にあたっては、国内外ともに激動の情勢が続く中ではありませんが、新たな国の施策などに対応していくことはもちろん、平成21年度2月補正予算と平成22年度当初予算を一体として切れ目なく執行できるように限られた財源の効果的な配分に努めたところであり、これまでの取り組みを継続、充実していく考えです。

また、効率的な展開を図るためには、行政改革の推進は不可欠の要素であり、今後新たな「串間市自立推進行政改革プラン実施計画」を着実に実行するとともに「0予算事業」の拡充を図り、質の高い行政サービスが提供できるよう、市民の視点に立った行

政改革を一層推進します。

さらに、平成22年度は「第5次串間市長期総合計画」の策定年度となつていくことから、市民の皆さんの声を十分に聞き取り、また意見交換を行いながら本市を発展へと導く羅針盤づくりに全市民の英知を結集していかなければならないと強く思っています。

わたしが市政をリードした約8年の間に、さらなる飛躍に必要な基盤を整え、体力を培うことができたものと自負しています。そして、わたしが任期を全うした後には、その資源を基に新たなリーダーが串間を明るく未来へと牽引されることを希望します。

さらに、市民・市議会・行政が三本の矢となることでできれば、小さくとも存在感のある地域へと発展することができますものと確信しています。このような思いの中、自らの政治生活43年間の集大成となる平成22年度も、最後まで気を引き締め、責務を全うする覚悟です。

※今回掲載した平成22年度串間市施政方針は抜粋です。全文は、市の公式ホームページ(<http://www.city.kushima.lg.jp/>)でご覧になれます。

小さくとも存在感のある地域へと発展するため  
最後まで気を引き締め責務を全うします。

